



堀田貢君を追懐して

道路改良會會長 水野鍊太郎

快活であり元氣であり偉大な體軀の持主であつた堀田貢君は、余の内務大臣時代に警視總監となり、次で内務次官となつたが、不幸二豎の冒す所となり、永らく病床にあつて療養したが、其の效なく遂に長逝した。實に哀悼に堪へない。君は幼い頃より神童の譽があつて、各學校とも常に優位を占めた。東京帝國大學卒業後、見習として遞信省に入つたが、君の志は内務行政に在りて、内務省に入るこゝ

とを希望し一日余を訪ふて其の希望を述べた。余は君の志望の熱烈なることを認めただので、遂に内務省に採用し指導したのであつた。其の後千葉縣、神奈川縣、茨城縣等の地方に轉任して地方行政の實務に當つたが、學識と實際の經驗とを體得し、行政官として儕輩に擢でた。君の如き俊才は長く地方に居らしむるより直接本省に入れて使つて見たいと思ひ、再び内務本省に書記官として任用したのである。其の後大臣官房文書課長、參事官、内務大臣秘書官等として活動したものであつた。大隈内閣の時京都府内務部長に出で、今上陛下の御即位の大典には知事を補佐して相當の成績を挙げ、其の後歐米各國を巡遊して大に見聞を廣めた。歸朝忽々余の内務大臣時代に拔擢して土木局長に任用したのである。

君の土木局長としての業績は著大なものがある。明治二十一年以來屢々企てられて成立しなかつた道路法を制定して我が道路行政上に一新時機を與へたことは君の力に待つことが多かつたのである。又道路改良會の創立に就ても君は當初より多大の盡力をなし、創立後常務理事として會務執行の全責任を荷ひ、本會が今日の如き盛況を見るに至つたのは君の努力によるものが少くない。更に治水事業の擴張を圖り、臨時治水調査會を設け、其の實を挙げむことを期したのであつたが、財政の都合上君の在官中其の實現を見るに至らなかつたのは遺憾である。又港灣行政に就ても相當の成績を挙げ、政府の直接執行する港灣工事の統一を期し、公有水面の利用と水面に存する權利との調和を圖るために、從來の斷片的法規を統一して公有水面理立法の制定に力を致し、又門司、神戸、横濱の三大港灣工事に盡した功績は大なるものである。君は此の如く非凡の識見を以て多くの問題を解

決したことは、余の常に敬服する所である。余の再び内務大臣になるや、土木行政の爲には君を他に轉ぜしむることは遺憾であつたが、當時の帝都警察の状況を見るときは、非凡の秀才を以て之に當らしむるの必要を認めたるが爲め、遂に君を煩はして警視總監の任に當らしめた。警視總監在任の期間は甚だ短かつたにも拘はらず、専ら警察の民衆化に努め、大に畫策する所があつたが、川村竹治氏が満鐵社長に轉じたるが爲め、内務次官の椅子に君を迎ふることの止むを得ざるに至つた。此の時分から君は不幸にして病魔に襲はれ、半歳ならずして遂に退官することになつた。

君は資性快活であつて、瑣事に拘泥せず、しかも非常の熱心を以て事に當り、各種の難問題を解決し、凡ての事案に對し敏速に措置する手腕を有つてゐた。更に政治的方面に於ても、多大の志望を有し、大に畫策する所があつた。今日國家多事の際、君の如き識見と手腕を有する士を要求して止まないのであるが、前途有爲の才を抱いて空しく白玉樓中の人となつたことは、國家の爲寔に遺憾とする所である。余は衷心より君の長逝を惜しみ、哀悼の情に堪へないのである。

輓堀田前内務次官

香堂 鍊

憶昔日尋雨底山。壯遊如夢古函關。英魂今向那邊去。只見行雲度岫還。
志業廿年才未伸。濟時懷抱一拋新。乍歸鶴見寺邊土。俯仰寥寥春不春。